

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0194700100		
法人名	丸信産業株式会社		
事業所名	グループホーム光の家族		
所在地	北海道中川郡豊頃町中央新町50-1		
自己評価作成日	平成25年10月22日	評価結果市町村受理日	平成25年12月24日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0194700100-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0194700100-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成25年11月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者さんが自然と食堂に集まり、皆さんでテレビを観たり、体操をして過ごしています。ゆっくりとした時間が流れていると思います。利用者さんの生活歴から、一緒にグループホームの前にある畑に行き、畑仕事をしたり、お散歩に行ったりとニーズに合わせた時間の活用をしていると思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

広い敷地を有した平屋建ての1ユニット9名で運営されているグループホームである。利用者が快適に暮らせるよう随所に工夫が見られ、正面入り口側に施されている広範のガラス張りは開放感があり、明るくゆったりした雰囲気です。室内から四季の移り変わりが感じられる環境になっている。利用者が自然と集まる食堂ではテレビを観たり体操やカラオケを楽しむなど様々な活動を通して、職員は利用者のその日一日を大切に、その人にとって一番よい過ごし方を提供できるよう支援している。今年度から職員は担当制を取り、利用者との関わりの中で会話することを心がけており、思いを受け止めケアプラン作成に反映させている。家族との連絡は普段からこまめに取られており、毎月発行する通信には利用者の表情を捉えた写真を掲載し、担当職員からの一言も添えられ、家族の信頼と安心につながっている。代表者、管理者は職員教育に取り組むと共に、代表者は年1回、職員と個人面談を行いキャリアパスを提示し、職員の資質向上と就業環境整備に努めている。更に代表者は利用者だけではなく地域住民が地元で安心して暮らし続けられるよう、共用型通所介護の開設やグループホーム増設など福祉事業の充実に向け、取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念の他に、介護職員間の理念を設け、現場内で意識し業務にあたるようにミーティング等で話し合っている。	施設理念「かたよらない心 こだわらない心 とらわれない心 あたたかい心」と、職員の現場理念「決められたことは守る」を休憩室に掲示し、ミーティング時に再確認しながら日々の業務の基本として実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所を散歩に行ったり、事業所内で開催する音楽レクリエーションのお知らせを回覧板に入れる等をし、地域と積極的に関わっている。	利用者と近所の散歩や地域への買い物、病院受診時での交流、事業所の行事案内を回覧板に入れるなど、地域との付き合いを大事にした取り組みを行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実施していない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議後は、ミーティングで結果を職員に周知し、今後の注意点や、会議で出た意見などを伝えている。	2か月毎に町福祉課長、民生委員、包括支援センター職員、町内区長、家族をメンバーとし、オブザーバーも参加し開催している。会議では事業所の活動状況やヒヤリ・事故報告等で意見交換を行い、そこでの意見等をサービスの質の向上につなげている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に出席してもらい、情報の交換や、入所後の利用者の情報などを共有している。	代表者は行政とさまざまな機会を通じて相談や情報交換と連携に努め、協力関係を築いている。町から依頼を受けた場合は、事業所を災害時の避難場所として提供する考えである。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の意思を尊重し、外に行きたいようであれば職員が付き添っている。拘束は一切行っていない。	管理者、職員は日々の介護サービスのあらゆる場面で利用者を尊重し、玄関の施錠を含め身体拘束をしないケアを実践している。12月中に実践者研修に参加した職員による報告会を予定している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は実践者研修などに出席し、高齢者虐待などについて学習している。職員間で、利用者の身体に変色があればケース記録に記載し、なぜ変色が出たのか、いつできたものかを確認し合っている。		

グループホーム 光の家族

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実施していない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時の契約以外、実施していない。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設けているが、意見の投書はない。	意見箱を設置すると共に、家族の訪問時や運営推進会議、家族会を通じて何でもいってもらえる関係作りに努めている。家族への連絡、相談は担当職員が行い、今年度から毎月通信「レッツひかり」を発行している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ミーティングで話し合う機会を設け、各職員からの意見や、担当者からの意見を聞けるようにし、職員が統一した対応ができるように話し合っている。	代表者、管理者は毎月のミーティングや日常業務の中で職員の意見や提案を聞き取るよう努め、運営に反映させている。行事担当、広報担当、利用者の担当制をひくことで職員それぞれの意識向上につなげている。	職員は外部研修機会を確保し、報告書を作成しており、全職員が共有できるよう伝達研修を予定しているため、その実践に期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年度初めに人事考課の面接を行い、職員が出来ている部分、これから心掛けて欲しい事などを話しあっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内では、管理者が認知症基礎知識などの研修を行い、職員が学習すべきである知識の共有を図っている。施設外への研修も参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	実施していない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接に伺ったときに、入所後の生活面での不安な点などを聞き、入所日までに解消できるように心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所に罪悪感を感じられる家族が多いので、その気持ちを減らせるように声掛けを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所後に提供出来るサービスの確認と、家族に協力を求める部分の話し合いを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物量み、食器拭きなどのお手伝いをお願いしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が面会にみえられた場合には、最近の状況や、入所前の様子などを話し合うようにしている。町外への受診など、家族に協力を依頼している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	町内の病院への受診のときには、利用者が話しかけられることが多く、その都度、知り合いの方と話ができるように心掛けている。町外から入所された方は、面会にみえられたときのみ、実施している。	行きつけの美容院へ出かけたり、病院受診時に友人や知人に合う機会を大切にし、継続的な交流ができるよう働きかけている。又、本人が楽しみとしている習字や畑作業を継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の関係を理解できるように職員で話し合い、利用者に出ること、好きなことの把握に努め、各利用者が円滑に暮らせるように心掛けている。		



グループホーム 光の家族

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	実施していない。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各利用者に実施している。	センター方式によるアセスメントの活用や家族からの情報と日々の関わりの中での会話などから希望や意向を把握し、利用者本位の支援に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時にも、家族からも詳しく生活歴を聞き、入所後は面会に来たときに話を聞いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各利用者に実施している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各利用者に実施している。	その人らしい生活を支援するため、アセスメントを含めカンファレンス、定期的なモニタリング、評価を行い、本人、家族、職員の希望や要望を反映した介護計画を作成している。担当制になったことでより細やかなケアにつながっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各利用者に実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	実施していない。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	実施していない。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	各利用者に随時実施している。	協力医療機関がかかりつけ医となっており、連携を図った支援に取り組んでいる。町内受診は事業所が対応し町外は家族の対応で、家族とは常に情報共有し適切な医療につなげている。	

グループホーム 光の家族

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	実施していない。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、こまめに面会に行き、入院中の状態の把握に努め、退院の目安を病院の職員の方と話しをしている。町内の病院には入院設備がないため、入院時の場合に備えての関係作りは行っていない。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	実施していない。	重度化、終末期については契約時に医療行為が必要になったら事業所では対応できないことを説明し、理解を得ている。利用者の状況変化は早い段階から家族と話し合い、意向を確認しながら取り組んでおり、協力医療機関や消防署との連携もとられている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	基本的な応急処置については、消防署員の方から学んでいる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中想定、夜間想定避難訓練を実施し、緊急時に対応できるようにしている。避難訓練の時に、消防署員の方に具体的な避難方法などを学んでいる。地域との協力関係は出来ていない。	消防署の協力の下、年2回、日中・夜間を想定した避難訓練を利用者の参加を得て実施し、緊急時の対応や避難方法の確認で消防職員からはその都度評価を得、次回の訓練につなげている。10月にはスプリンクラーが設置された。	地域の協力体制については運営推進会議の中で要請をしているが、避難訓練の参加は得られていない。地域住民の理解を深め、実践的な取り組みと具体的な協力体制を確保し、災害対策の更なる構築を期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各利用者に実施している。	職員は尊厳に配慮した声かけや対応を心がけ、本人の思いに添ったケアに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は利用者とのコミュニケーションを図り、自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各利用者に随時実施している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	各利用者に実施している。		

グループホーム 光の家族

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳、下膳のお手伝いをお願いしている。	栄養バランスに配慮した美味しい食事が提供され、土・日以外は専任職員が調理し、食器拭きや下膳等を職員と一緒にしている。出前をとることもあり、食事が楽しみになるよう取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各利用者に実施している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	各利用者に実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	職員は、利用者の排泄記録を確認し、適時にトイレ誘導を行っている。また、使用したパット、リハビリパンツ、紙オムツの枚数を排泄記録に記載し、職員の心掛けにつながるようにしている。	排泄記録を下に、一人ひとりの排泄パターンを把握し、利用者の状況や体調に応じた適切な声かけ誘導でトイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	センナ茶や寒天の摂取など、食べ物で排便があるように取り組んでいる。各利用者によって、下剤の追加や坐薬の挿肛と対応を変えている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は一日おきに設け、受診や排便に応じて入浴できるように支援している。	週3回の入浴と受診前や状況に応じた適宜な支援を行い、職員は入浴時は皮膚の観察など細かいところに気をつけるよう努めている。浴室は広々として介助しやすくなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各職員が服薬について理解できていると思う。定期薬に変更があった場合は職員に日誌、ケース記録で周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	習字が好きな方は、食堂で活動できるように声掛けしている。		

グループホーム 光の家族

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に応じて、外出できるように職員で協力している。家族や地域の人の協力しながら外出の機会を設けたことはない。	広い敷地を有し、畑・花壇作りや天気の良い日の散歩には快適な環境になっている。利用者の希望や健康状態に配慮し、日常的な外出や買い物、地域のお祭り、ドライブ等、できる限り外に出かけられるよう心がけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所でおこずかいを預かり、本人に必要な消耗品の購入を利用者と買い物に行ったり、美容室代として使っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は事務所にしかないため、事務所で電話を掛けてもらっている。手紙は担当者が代わりに発送している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の飾り物や、花を飾り、季節感を出すように心掛けている。	共用空間は広々とした開放感のある明るい造りで、縁側テラスや畳敷きの小上がり、天窓等、随所に工夫が見られ、居心地よく過ごせるよう配慮されている。観葉植物やぬいぐるみを置いたり、洗濯物が干されているなど、家庭的な心地よい雰囲気になっている	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂付近にソファを用意し、くつろげるような環境を作っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所にあたっては、出来るだけ今まで使っていたものを持参してもらうようお願いしている。室内には、写真を貼ったり、自分で塗った塗り絵などを貼っている。	居室には使い慣れた家具や仏壇、好みの物が持ち込まれ、本人らしく安心して過ごせる空間になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	「トイレ」の場所を示した物を廊下に貼り、自分でトイレに行けるようにしている。		



目標達成計画

事業所名 グループホーム 光の家族

作成日：平成 25年 12月 24日

市町村受理日：平成 25年 12月 24日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	11	研修の機会が十分に施設内で活かしきれていない。	研修を受けてきた職員がその内容を他職員にアウトプットすることで情報の共有だけでなく、自身の知識の深化につなげていけるようにする。	報告書は作成しているので、毎月行っている職員の全体会議の際に研修報告の時間をあてる。	1年
2	35	地域との協力体制がなく、構築していくことが課題。	地域住民と一緒に、災害や緊急時の対策や訓練ができるような関係を構築する。	町内会等の会議への参加、老人会との交流など相互理解から始めたい。	3年
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。